

政策評価・事務事業評価実施後における執行者対応等検証シート

【事業名称】 1%まちづくり事業

	H30年度予算額	H29年度決算額	H25年度決算額（評価実施年度）
事業費	60,000,000円	37,511,000円	42,997,000円

○事業評価チェック表（政策評価・事務事業評価実施時における事業概要及び事業実績並びに評価結果）

PLAN	<ul style="list-style-type: none"> 事業の概要 市税の1%程度を財源に、地域コミュニティを活性化させるため、住民と行政が一緒になってまちづくりを行う事業 ねらい 市民の参画と協働のまちづくりの実践 予算 1%まちづくり事業補助金 60,000,000円 																						
	<ul style="list-style-type: none"> 事業実績 平成25年度申請件数 129件、採択件数 128件、取り下げ件数 1件 採択金額 46,117,000円 事業実施件数 127件、決算見込み額 42,997,000円 																						
ACTION	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">総合評価基準</th> <th>計</th> <th>75/100</th> <th>課題</th> </tr> <tr> <td>5</td> <td>きわめて良好である 80点以上</td> <td></td> <td rowspan="5">4</td> <td rowspan="5">実施から8年がたち、事業全体を見直す時期に来ている。継続事業が多いことによるマンネリ化への懸念。実施団体の高齢化と後継者不足問題。行政提案型や、対象事業の拡大等による事業の活性化などが必要。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>適正である 60～79点</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>おおむね適正である 40～59点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>問題がある 20～39点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>不適正である 19点以下</td> <td></td> </tr> </table>	総合評価基準		計	75/100	課題	5	きわめて良好である 80点以上		4	実施から8年がたち、事業全体を見直す時期に来ている。継続事業が多いことによるマンネリ化への懸念。実施団体の高齢化と後継者不足問題。行政提案型や、対象事業の拡大等による事業の活性化などが必要。	4	適正である 60～79点	○	3	おおむね適正である 40～59点		2	問題がある 20～39点		1	不適正である 19点以下	
	総合評価基準		計	75/100	課題																		
	5	きわめて良好である 80点以上		4	実施から8年がたち、事業全体を見直す時期に来ている。継続事業が多いことによるマンネリ化への懸念。実施団体の高齢化と後継者不足問題。行政提案型や、対象事業の拡大等による事業の活性化などが必要。																		
	4	適正である 60～79点	○																				
	3	おおむね適正である 40～59点																					
2	問題がある 20～39点																						
1	不適正である 19点以下																						
決算事業評価結果表 における評価	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">今後の方向性基準評価評価（該当欄の○）</th> <th>評価</th> <th>決定期由</th> </tr> <tr> <td>5</td> <td>「拡充する」</td> <td></td> <td rowspan="5">様々な課題はあるが、事業自体は、必要なものであり、個々の事業の効率的な運営や、本来必要とされている予算規模まで事業を拡大するなど、事業の改善を図りながら継続していくべきである。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>「現状のまま継続する」</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>「改善・効率化し継続する」</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「見直しのうえ縮小する」</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>「不適正である」</td> <td></td> </tr> </table>	今後の方向性基準評価評価（該当欄の○）		評価	決定期由	5	「拡充する」		様々な課題はあるが、事業自体は、必要なものであり、個々の事業の効率的な運営や、本来必要とされている予算規模まで事業を拡大するなど、事業の改善を図りながら継続していくべきである。	4	「現状のまま継続する」		3	「改善・効率化し継続する」	○	2	「見直しのうえ縮小する」		1	「不適正である」			
	今後の方向性基準評価評価（該当欄の○）		評価	決定期由																			
	5	「拡充する」		様々な課題はあるが、事業自体は、必要なものであり、個々の事業の効率的な運営や、本来必要とされている予算規模まで事業を拡大するなど、事業の改善を図りながら継続していくべきである。																			
	4	「現状のまま継続する」																					
	3	「改善・効率化し継続する」	○																				
2	「見直しのうえ縮小する」																						
1	「不適正である」																						

○執行者対応等確認表（委員会の評価結果を受けての執行者の対応）

CHECK	<p>1 政策評価・事務事業評価実施後の事業実績（評価実施時との比較）</p> <table border="1"> <tr> <th>年度</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> <tr> <td>事業実施件数</td> <td>127件</td> <td>132件</td> <td>138件</td> <td>124件</td> </tr> <tr> <td>決算額</td> <td>43,362,000円</td> <td>44,824,000円</td> <td>46,077,000円</td> <td>37,511,000円</td> </tr> </table> <p>前回評価時（H25）より、今回検証時（H29）には事業実施件数及び決算額がともに減少となった。</p> <p>2 政策評価・事務事業評価実施後の改正点、または見直しを行った点（改正等を行わなかった場合は、その理由等）</p> <p>(1) 採択基準の見直し 主な採択基準の見直しでは、地域における高齢者のコミュニティづくりを支援するため、H28年度に「高齢者の居場所づくり事業」を追加した。なお『講師料、出演料、専門的技術協力者への謝金基準』における「講演会」関係については1%事業の趣旨・目的に鑑み適用除外とした。</p> <p>(2) 市民へのPR活動 市民への広報活動では、広報おたによる各告知と月一回の事業紹介記事に加え、新たに市ツイッターによる事業情報の提供、イベント情報のHP掲載、記者資料（年間スケジュール、事業の紹介）の提供を行った。</p>	年度	H26	H27	H28	H29	事業実施件数	127件	132件	138件	124件	決算額	43,362,000円	44,824,000円	46,077,000円	37,511,000円
	年度	H26	H27	H28	H29											
事業実施件数	127件	132件	138件	124件												
決算額	43,362,000円	44,824,000円	46,077,000円	37,511,000円												
<p>今後の事業方針</p> <p>・今後の事業方針（事業実績に対する評価も含む） 昨年度は申請件数や採択件数が前年度と比較して減少した。1回限りの事業の減少や事業費・補助金額の大きな事業の休止、PR不足による申請減少などが主な要因である。今後も事業は継続したい。 1%まちづくり事業は、今年度12年目を迎え、今まで多くの市民に利用され、ある程度の定着も図られている。更に1%まちづくり事業の趣旨、目的を多くの市民に知っていただき、積極的に活用していただくよう努めたい。従来の周知手段に加え、制度利用の具体的な提案などを通じて市民の申請意欲を喚起したいと考えている。</p>																

○検証結果（執行者の対応に対する委員会の評価）

ACTION	<p>対応への評価、課題・改善点等（今後の事業展開等含む）</p>	<p>委員会における検証結果</p> <p>地域コミュニティの活性化、市民の参画と協働のまちづくりを実践的に行う本事業は、他自治体においても類を見ない、本市特有の素晴らしい事業であり、10年以上経過し定着が図られている。更に、評価実施後、採択基準に高齢者の居場所づくり事業を追加する等の見直し、ツイッターやイベント情報のホームページ掲載といった市民へのPR活動も充実させており、着実な取り組みが見られる。</p> <p>ただ、近年における実施件数及び決算額を見ても明らかのように、新規申請件数の減少、継続事業の硬直化・休止等が要因となり、前回の評価実施時における課題は依然、残っている。市民が『労力をかけて公共性、公益性のある目標を達成すること』が本事業の原則となるが、1%まちづくり会議における採択基準の緩和に向けた取り組みや申請書類の簡素化を検討することで、間口が広がり、より親しみやすい事業への転換が図られるのではないかと考察する。</p> <p>また、行政から市民・団体に向け、過去の事例に捉われない具体的な提案を行ったり、ワークショップの開催といった、新たな仕掛けから更なる事業の発展を目指し、1%まちづくり事業を利用してみようという意識付けに対する積極的なサポートに引き続き尽力していただきたい。</p>
--------	-----------------------------------	--